

- 調査期間 2023年4月～6月実績 2023年7月～9月見通し
- 調査時点 2023年6月
- 調査対象 西濃を中心とした地域の当金庫取引先事業所
- 調査方法 アンケート調査
前期(3ヶ月前)・前年同月(12ヶ月前)とを比較した質問を実施。
- 回答企業数 583 (回答率 97.2%)
- 調査結果

製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計
198	37	108	94	123	23	583

大垣市	瑞穂市	本美市	海津市	養老郡	合計
246	19	67	16	41	
不破郡	安八郡	揖斐郡	本美郡	その他	合計
28	51	91	18	6	583

景気の状況と今後の見通し

全産業総合	<p>▶概況 全業種の3ヶ月前との比較で見た業況判断DIは、△1.5となり前期0.9と比べ悪化した。業種別業況では、製造業、卸売業は前回調査より悪化した。小売業、サービス業、建設業、不動産業については厳しい状況になった。全産業総合の個別項目については、生産・売上DI(前期4.3→4.5)、収益DI(前期9.5→△6.4)、資金繰りDI(前期△9.5→△8.8)と、いずれの値も前期より改善傾向にあるものの、収益、資金繰りについては、依然としてマイナスへの振れ幅が大きい状況にある。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、売上は回復傾向にあるものの、エネルギー価格をはじめとする物価高が依然として事業所の収益に影響を与えている事が窺える。全産業総合における今後3ヶ月間の予想では、生産・売上については引き続き改善の見通しが強いが、収益、資金繰りについては今期DI値からほぼ横ばいであり、引き続き厳しい状況が続くことが窺える。売上の増加見込みも受け、設備投資の今後の実施予定については3.0%と今期1.6%より若干増加している。</p>
製造業	<p>▶概況 製造業全体の業況判断DIは4.0と前期2.6より悪化した。今後の見通しについても8.1と製造業全体としては悪化傾向にある事が窺える。設備投資の予定では、今期実施割合2.0%に対し今後の実績予定5.1%と、売上増加を踏まえ設備投資への意欲が高まっている。一方で経営上の問題点として、「売上・受注の減少」「人手不足」「競争の激化」のいずれも増加している。また、受注は増加傾向にあるものの、物価高騰に対する値上げ交渉については、厳しい状況にある事がコメントから窺えた。</p> <p>▶製造業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車産業は、回復傾向にあり受注増加が進んでいる。特にEV化の進展は加速しており、工場を増設し受注に対応しているなどのコメントが見受けられた。 他の製造業についても、海外需要増加による海外向け受注の増加やメイン取引先の工場立ち上げによる受注増加などが発生しているが、メイン取引先の動向により業況が左右される事が課題とされている。受注増加の一方で人手不足感も続いている。また、外注取引先が廃業となり繁忙期において外注先が不足する事態が発生している。 物価高の影響は依然として続いており、エネルギー・鉄鋼・石材・木材などの様々なものが値上げとなり単価交渉を行うも難航している声も複数寄せられた。
卸売業	<p>▶概況 卸売業の業況判断DIは△8.1と前期△10.5より悪化したものの全業種の中でもマイナスへの振れ幅が大きい業種となっている。今後の見通しについては、業況判断は横ばい(今期△8.1→△8.1)となるも、収益(今期△5.4→△13.5)、資金繰り(今期△8.3→△13.9)と悪化しており、現在の物価高による収益への悪影響は当面続くと考えている事業所が多い事が窺える。各コメントにおいても、物価高による価格転嫁に苦戦している意見が多数見受けられた。</p> <p>▶卸売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット販売部門は引き続き好調。コロナ禍も落ち着いてきたため、今後はネット販売以外の売上増加を期待している。コロナ禍からの厳しい経済環境から零細事業所の廃業が増えており大型の事業所に注文がシフト、競争が激化していく事を懸念している。 仕入先メーカーでは、SDGsやコロナ禍の影響により在庫を抱えなくなってきたため、余剰在庫を安価で仕入れる事が難しくなった。仕入価格・電気料金等の高騰も続いており、より一層利益確保に努めていかなければならない。
小売業	<p>▶概況 小売業の業況判断DIは△7.4と前期△2.8より悪化した。前期との比較については、売上は横ばいであるが収益・資金繰りについては前期より悪化、物価高により仕入価格が高騰し収益の悪化に繋がっている事が窺える。経営上の問題点においては、「競争の激化」が25%と前回調査結果(14%)より大きく増加した。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、顧客は戻りつつあるものの、顧客獲得のため競争が激化している状況が窺える。</p> <p>▶小売業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、来店客は徐々に戻りつつあり、アルコール類の販売も増えてきている。コロナ禍で始めたテイクアウトの注文も引き続き堅調に推移している。コロナ禍からの回復は進んでいる一方で団体顧客はなかなか戻ってきておらずコロナ前の回復までは至っていない事業所も見受けられる。 売上は回復傾向にあるが大手企業との競争が激化してきている。少子化や電子書籍の台頭、電気自動車の普及などの社会環境の変化により書店、ガソリンスタンド、学生を対象とした教材は売上減少を懸念している。またネット通販が浸透しているが、ネット通販にて低価格の商品が手軽に購入できることによる、顧客離れを懸念している。
サービス業	<p>▶概況 サービス業の業況判断DIは△4.3と前期0.0より悪化した。売上・収益・資金繰りの各項目について、いずれも前回調査より悪化している。一方でウィズコロナが進む中、客足は徐々に戻りつつあるとのコメントが見受けられ、今後の業況については売上(5.3→9.6)収益(△14.9→△9.6)資金繰り(△10.6→△8.5)ともに改善する見通しである事が分かった。今後ともウィズコロナの進展により業況改善を期待している状況が窺える。</p> <p>▶サービス業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ規制緩和により観光地を中心に人が動き出している。インバウンド需要も回復基調にあり、団体旅行の予約も増加。イベントの開催も増えてきている。コロナ前に比べると、まだ客足は戻ってきていないが今後の売上回復を期待している。売上回復傾向である一方で、大手との競争は激化している。 運送業については、全体的に人手不足が続いている。2024年問題により労働時間の取締りが厳しくなり、人材確保が課題となっている。 中古車市場は落ち着きつつあるも、人気車種は高値で推移している。今後増加していくハイブリット車、電気自動車等の新技術力への対応を強化していきたい。
建設業	<p>▶概況 建設業の業況判断DIは0.8と前期8.1より悪化した一方で今後の見通しについては11.4と悪化を見込んでいる。コメントからは、コロナ禍から徐々に受注回復基調である声も複数見受けられ、今後の受注増加を期待している状況が窺えた。経営上の問題点については「人手不足」が前回調査より減少したものの、36.6%と他の業種と比べ高い水準で推移しており、今後の売上増加により人手不足の更なる深刻化を懸念する声も見受けられた。</p> <p>▶建設業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上については、コロナ禍による半導体不足も解消しつつあり、延期してきた受注が再開されてきた。官公庁からの受注については、減少していたが、今後は予算の回復により入札の増加を見込んでいる。対民間・対官公庁ともコロナ禍からの受注回復を期待しているコメントが多く寄せられた。 建設資材の高騰が続いている。工事毎に価格交渉を行っているが、希望の価格に請負金額が収まらないケースがある。また今後の状況も不透明。従業員の高齢化・働き方改革の進展により従業員の確保・育成・管理が課題である旨の声が多数あり、物価高騰対策・人手不足問題が建設業の大きな課題である事が窺えた。
不動産業	<p>▶状況 不動産業の業況判断DIは△13.0と前期△12.5より若干悪化、一方で今後の見通しは△8.7と悪化を見込んでいる。経営上の問題点では、「売上・受注の減少」が60.9%「競争の激化」が34.8%と厳しい状況に晒されている。コメントからは、売上は安定しているとの声と売上減少が続いているとの声の双方の意見が散見され、地域により売上の濃淡が大きい業種である事が窺える。</p> <p>▶不動産業コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上については、前回から大きな変動なく安定しているとのコメントの一方で、景気悪化の影響で不動産購入者が少なくなってきたとのコメントも寄せられた。都市部と地方との間で景気の二極化が発生しており、地域により需要に大きな差異が発生しているとの意見があった。 また、空地を手放す人が減少傾向にあり、販売用土地が枯渇してきたとの声があり、販売用土地の購入の競合激化が進んでいる事が窺える。不動産賃貸業においては、建物の老朽化による修繕が必要となるが、昨今の原材料高騰の影響で修繕費の負担が重くなっている事が課題となっている。

▶ 図表1 景況DI値

業種	業況			生産・売上			収益			資金繰り		
	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し	前期DI	今期DI	今後の見通し
全産業総合	0.9	▲1.5	4.1▲	4.3	4.5	12.0▲	▲9.5	▲6.4	▲6.0▲	▲9.5	▲8.8	▲8.2▲
製造業総合	2.6	4.0	8.1▲	7.2	9.6	17.2▲	▲14.4	▲8.2	▲4.6▲	▲13.5	▲9.8	▲9.8⇔
食品製造	0.0	▲5.3	▲5.3⇔	5.0	5.3	5.3⇔	▲35.0	▲26.3	▲15.8▲	▲5.3	▲5.6	0.0▲
衣服その他繊維製品	0.0	7.1	0.0▼	0.0	7.1	7.1⇔	0.0	▲7.1	▲7.1⇔	▲23.1	▲7.1	▲7.1⇔
窯業・土石	▲9.1	▲25.0	▲25.0⇔	0.0	▲16.7	▲16.7⇔	▲18.2	▲41.7	▲41.7⇔	▲9.1	▲8.3	▲8.3⇔
金属製品	9.1	0.0	6.7▲	9.1	6.7	0.0▼	▲4.5	0.0	▲13.3▼	▲4.5	▲13.3	▲13.3⇔
金属プレス・メッキ	9.1	4.2	4.2⇔	18.2	12.5	16.7▲	▲22.7	▲12.5	▲12.5⇔	▲9.1	▲20.8	▲20.8⇔
その他製造業	▲8.7	▲19.0	4.8▲	0.0	▲4.8	19.0▲	▲30.4	▲23.8	4.8▲	▲26.1	▲19.0	▲19.0⇔
卸売業	▲10.5	▲8.1	▲8.1⇔	▲2.6	▲8.1	▲2.7▲	▲15.8	▲5.4	▲13.5▼	▲8.1	▲8.3	▲13.9▼
小売業	▲2.8	▲7.4	▲2.8▲	0.0	0.0	5.6▲	▲9.3	▲12.0	▲10.2▲	▲7.5	▲8.3	▲9.3▼
サービス業	0.0	▲4.3	2.1▲	6.3	5.3	9.6▲	▲13.7	▲14.9	▲9.6▲	▲9.5	▲10.6	▲8.5▲
建設業	8.1	0.8	11.4▲	8.1	5.7	18.7▲	▲10.5	▲5.7	4.1▲	▲4.8	▲2.4	▲0.8▲
不動産業	▲12.5	▲13.0	▲8.7▲	▲16.7	▲8.7	▲4.3▲	▲8.3	▲4.3	▲4.3⇔	▲8.3	▲4.3	0.0▲

今後の見通しは今期DI値と比較してDI値がプラスの場合は▲ マイナスは▼ 0は⇔で表記。

▶ 図表2 設備投資の状況

業種	設備投資			
	今期実施割合	投資の内訳(最も多いもの)	設備の目的(最も多いもの)	今後の実施予定
全産業総合	1.6%	機械の新・増設	拡販投資	3.0%▲
製造業総合	2.0%	機械の新・増設	開発投資	5.1%▲
卸売業	0.0%	店舗事務所	開発投資	2.8%▲
小売業	1.9%	店舗事務所	拡販投資	0.0%▼
サービス業	1.1%	その他	合省力化	1.1%⇔
建設業	1.6%	機械の新・増設	合省力化 拡販投資	4.1%▲
不動産業	—	—	—	—

(今後の実施予定は今期実施割合と比較して増加する場合は▲ 減少する場合は▼ 変わらない場合は⇔で表記)

▶ 図表3 経営上の問題点

業種	経営上の問題点							
	売上・受注の減少		人手不足		競争の激化		その他	
	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較
全産業総合	42.9%	▲	30.0%	▼	13.7%	▲	3.3%	▼
製造業総合	42.4%	▲	36.9%	▲	5.1%	▲	1.0%	⇔
卸売業	37.8%	▼	29.7%	▲	18.9%	▲	5.4%	▼
小売業	57.4%	▲	14.8%	▲	25.0%	▲	11.1%	▼
サービス業	38.3%	▼	26.6%	▼	17.0%	▲	0.0%	▼
建設業	32.5%	▲	36.6%	▼	9.8%	▼	2.4%	▲
不動産業	60.9%	▲	21.7%	▲	34.8%	▼	0.0%	▼

(前期との比較は前回調査と比較して増加している場合は▲ 減少している場合は▼ 変わらない場合は⇔で表記)

▶ 図表4 主要DI値の推移

